

都中英研だより

第76号

東京都中学校英語教育研究会
会長 遠藤 哲也
(葛飾区立新宿中学校)

都中英研のさらなる充実・発展のために

東京都中学校英語教育研究会

会長 遠藤 哲也

令和4年度東京都中学校英語教育研究会（以下、「都中英研」とする。）会長を拝命いたしました葛飾区立新宿中学校 遠藤哲也です。日頃より都中英研の活動につきまして、多くの皆様に御理解・御協力を賜り、深く感謝申し上げます。本会の歴代会長の皆様の意を継ぎ、都中英研のさらなる充実・発展のために努力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



さて、コロナ禍にあり、残念ながらこの数年間、例年通りの活動がなかなかできない状況にあります。しかし、都中英研としては「学びを止めない」という強い決意の下、オンライン方式での研修をはじめ、対面での研修会実施についても検討を進めてまいりたいと考えています。夏の研修会や12月の英語学芸大会など、詳細が決まりましたら改めてご案内をさせていただきますので御参加いただけますようお願い申し上げます。

都中英研は東京都教育委員会研究推進団体の認定を受けた研究会です。会の目的は、中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めるとともに英語教育の振興を図ることとしています。特に、本会はこの目的を達成するために、次の5つの事業を行っています。

- 1 各種研修会の開催（研修会、発表会、講演会等）
- 2 調査活動（コミュニケーションテストの作成とその分析、調査活動等）
- 3 研究活動（英語教育に関わる基礎的かつ実践的な課題等）
- 4 各種英語教育団体との連絡
- 5 機関誌発行、本会の目的達成に必要な事業

これら5つの事業の中でも4の「各種英語教育団体との連携」では、平成29年度から役員会組織に小中連携担当を設け、小学校の研究会との関係を深めています。

また、昨年度から全面実施となりました新しい学習指導要領による授業の進め方や評価・評定の在り方、東京都教育委員会が進める英語教育に関する各事業等の最新の情報を発信していくことも、私たちに与えられた大きな使命であると考えています。

都中英研では、教員の授業力を向上させるべくワークショップを企画・開催したり、会報等を通して様々な情報の発信に努めたりしてまいりましたが、引き続き皆様のお役に立てるような活動を積極的に進めてまいります。都中英研が教育改革の先陣を切れるよう、日々研鑽を積み、前進していく所存です。関係の皆様のお理解と御協力をお願い申し上げます。

都中英研のさらなる充実・発展のために努力してまいりますので、これからも皆様の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

『主体的に学習に取り組む態度』の評価について

調査部部长 荒川 高広（千代田区立九段中等教育学校）

0. そもそも

なぜ「主体的に学習に取り組む態度（以下「主体」と略）」の評価が難しく感じられるのでしょうか。それは「粘り強い取り組み」「自らの学習の調整」といった、本来目には見えない学習者の内面の問題を、指導者が見取り、具体的な数値やABCといった段階で表すことが難しいからでしょう。ではどうやって見取るか。そこで必要になってくるのが、授業中の言語活動や考査、パフォーマンステストなどで目的・場面・状況を与えてアウトプットさせることです。

1. 基本は「思判表」と一体的に評価

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料「中学校外国語」の第3編の事例5は「主体」の評価について記載しています。その中で留意点が以下のように示されています。

- ①「主体的に学習に取り組む態度」は、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている状況を評価する。
- ②具体的には、「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」、「書くこと」は、日常的话题や社会的な話題などについて、目的や場面、状況などに応じて、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて、話したり書いたりして表現したり伝えあったりしようとしている状況を評価する。
- ③「聞くこと」、「読むこと」は、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題などについて話されたり書かれたりする文章を聞いたり読んだりして必要な情報や概要、要点を捉えようとしている状況を評価する。
- ④上記の側面と併せて、言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている状況についても、特定の領域だけでなく、年間を通じて評価する。

①～③について、単元の評価規準では、授業中の言語活動やパフォーマンステストで実際に見取ることができるよう、「思考・判断・表現」と対の形の文言になっています。そのため「思判表」の観点と「主体」の観点は一体的に評価、つまり同じ評価場面で評価して良いこととなっています。

2. 何を評価材料とするのか

旧学習指導要領のもとにおいても、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の評価のためにパフォーマンステストは行われてきました。その際、私たち教師は生徒のパフォーマンスの様子から「懸命に発表・やり取りを継続させようとしている」「聞き取れなかったことを聞き返して確認している」「聞き手を意識して話す内容や話し方を工夫している」といった姿を見取ってきたはずですが、たとえ指導要領や観点の文言が変わったとしても、パフォーマンス中に見られるこのような生徒の姿は、そのまま「主体」を見取る評価材料になり得ます。一方、上記1で「思判表と一体的に評価」と記しましたが、これは「思判表と主体の評価結果を常に一致させる」ということではありません。あくまで「評価場面が同じ」ということであり、例えば「思判表」の評価がCであっても、「主体」はBということもあり得ます。近年ポートフォリオあるいは自己評価シートといった名称で、単元・考査ごとなどで生徒に振り返りをさせる機会も増えていますが、こうした生徒の振り返りの文言の中に、自身のパフォーマンスに対する具体的な記述があり、また実際その後のパフォーマンスに生かされていれば、「思判表」がCであっても「主体」がBというふうに、主体のほうをプラスに見取することはあり得ます。

3. 提出物の考え方

ノートやワークブックなど、宿題・家庭学習の取り組み自体は生徒の反復学習を促し、学習事項の定着を図る上で有意義です。しかし、これらを提出させそれを点数化することが目的となってしまうと、いわゆる「手段の目的化」となってしまいう危険性があります。私自身、かつて「努力しているのに成績が伸びない生徒」を救う手立てとして提出物を点数化し、評価材料としていました。しかし、本来そうした提出物が適正に取り組まれていたならば、その生徒は何らかの形で考査の得点やパフォーマンスに好影響が出るはずですが、しかし「提出すること」が目的となって、十分に音読できるようになっていない英文をノートに写したり、ワークブックの答えを丸写しするだけになってしまうと、むしろ生徒の貴重な時間を「誤った努力」に費やさせることとなります。作文やポスター作品のような一定の成果を示す提出物はパフォーマンスの産物、アウトプットとして評価に入れるべきですが、指導課程における日常的な宿題については、「生徒に助言を与える機会」ととらえ、それら宿題の「意義や正しい取り組み方」を生徒に理解させることこそが肝要であると思われます。

【参考資料】

- 本多敏幸（2022）「中学校における「主体的に学習に取り組む態度」の評価事例（事例5）」『英語教育』2022年8月別冊 大修館書店 pp.23-25
- 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校外国語』東洋館出版社

中英研各部サマワークショップ報告

「事業部・サマワークショップ」(ハイブリッド開催)

○日時：令和4年8月19日(金) 14:00～16:30

○内容等：テーマ『中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)を活用する英語教師』

- ・中学校英語教育を推進するESAT-Jの目的
- ・ESAT-Jへの効果的で、英語力が高まる教師にとってもお勧めの活用方法
- ・生徒の英語力を高める、教師の指導力を高める
- ・最新の指導法、伝統的な指導法、効果が高い指導法をさぐる

講師：東京都教育庁指導部指導企画課国際教育推進担当統括指導主事 関谷 さやか 様

発表者：八王子市立第六中学校教諭 横山 達也 調布市立調布第五中学校指導教諭 加藤真由子

千代田区立九段中等教育学校教諭 亀田 洋齊 千代田区立九段中等教育学校教諭 黄 俐嘉

○主催者：事業部では『中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)を活用する英語教師』と題してワークショップを行った。始めに都教委主管課の関谷統括指導主事よりESAT-J導入のねらいをご講演いただき、次に、スピーキング力向上のための実践例として「音読練習について」(横山)、「ライティングとの関連」(亀田)、「入学時からの指導」(黄)、「タブレット端末の活用、読み聞かせの活動について」(加藤)の発表を生徒実演も含めて行った。参加者は対面およびオンラインを合わせて154名であった。

事業部担当副会長 平岡 栄一

調査部「夏期ワークショップ」

○日時：令和4年8月23日(火) 13:00～16:30

○内容等：・講義「思考力・判断力・表現力を測るテスト問題の在り方～読む力と書く力～」

講師 東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授 根岸 雅史 先生

・講義：「本文の指導と評価を考えるためのフローチャートモデル」

講師：千代田区立九段中等教育学校講師ほか 本多 敏幸 先生

・テストづくりワークショップ(参加者が作成した問題の発表・検討と講師助言)

講師 玉川大学文学部英語教育学科教授 工藤 洋路 先生

千代田区立九段中等教育学校講師ほか 本多 敏幸 先生

○主催者：根岸先生、本多先生から御講義いただき、問題づくりにおける目的・場面・状況の設定の必然性、読むことの指導・評価の流れなどについて学んだ。次に受講者が持ち寄った実際の考査問題をどう改善できるかグループで検討した。最後に各グループから考査問題の改善案を発表し、工藤先生、本多先生、根岸先生より御助言いただいた。受講者同士話し合うことで、日頃悩んでいるテスト問題や評価の在り方について考えを深め合うことができた。

(参加者：一般参加27名、調査部員14名) 調査部 部長 荒川 高広

第19回 研究部ワークショップ

○日時：令和4年8月1日(月)・8月4日(木) 13:00～16:10 (Zoomによる開催)

○内容等：・「増えた語い・長くなった本文指導の工夫」橋本 晋作(渋谷区立松濤中学校)

第1回 ・「定期考査・パフォーマンステストから逆算して指導を考える」高杉 達也(筑波大学附属中学校)

・「即興で話す力を高める授業実践～英語で言いたかったけれど言えなかった日本語を調べる活動を通して～」前田 宏美(港区立港南中学校) 松野 麻里恵(港区立三田中学校)

第2回 ・「主体的に学習に取り組む態度を高める指導の工夫」

島田 拓(足立区立入谷南中学校) 大島 良一(江戸川区立篠崎第二中学校)

・「5ラウンドシステム～実際の指導と評価～」森沢 俊彦(町田市立真光寺中学校)

・「教科書1パート、1単元の指導手順」溪内 明(文京区立本郷台中学校)

○主催者：昨年度に続きオンラインで実施した。Zoomの定員を増やし、第1回は170名、第2回は150名の参加者があった。2日間で研究部員8名が、「増えた語彙と本文の指導」「定期考査・パフォーマンステストと指導の関係」「即興で話す力を高める実践」「主体的に取り組む態度を高める指導と評価」「5ラウンドシステム」「授業構成・指導手順」をテーマに授業実践を紹介した。参加者数と通信回線の関係からカメラオフで行ったが、チャットで参加者からの意見や質問を共有するなど、双方向で行うことができた。 研究部 部長 溪内 明 同 副部長 橋本 晋作

中英研各部サマーワークショップ報告

「プロジェクトチーム部夏季ワークショップ」

- 日時：令和4年8月22日（月）14：00～16：00（Zoomによる開催）
- 内容等：PT 部員による実践報告とワークショップ
 テーマ『指導場面に応じた音読指導』
 講師 文教大学国際学部国際理解学科 阿野幸一 先生
- 主催者：今年度 PT 部では「指導場面に応じた音読指導」のテーマのもと、研究を進めている。夏休み中にオンラインで研修会を実施、89名の先生方に参加していただいた。当日はPT 部員の実践発表に加え、運営に当たった先生を生徒に見立て、講師の阿野幸一先生が直接指導する場面に配信した。また、指導場面別「音読レシピ」を紹介していただき、多様な音読指導の方法について学ぶことができた。今後の活動として2月には対面での研究授業を予定している。
 PT部 部長 佐藤 順一

令和4年度・第75回 英語学芸大会の運営方法について

今年度は、集合開催およびオンライン開催の2つの方式で並行して実施します。2つは別の大会です。変更等も多々あり、また調整中の事項も含まれますが、ご理解、ご協力をいただければ幸いです。
 尚、詳細は都中英研 HP でご確認ください。

実施形態	【1】 集合開催	【2】 オンライン開催・ビデオ審査方式
日時・期間	令和4年12月26日（月） 全日	令和4年10月中旬～11月中旬の予定
会場等	かめありリリオホール（JR 亀有駅南口駅前）	
部門	<ul style="list-style-type: none"> ・ Speaking の部 制限時間3分 ・ Play の部 制限時間20分 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Speaking の部 制限時間2分 ・ Play の部 制限時間5分 ・ Performance の部 制限時間2分
参加条件等	各区市町村の代表 1名（スピーチ） or 1校（Play）	各校の代表 1校につき合計3エントリーまで参加可 （但し、Playは1つのみ）
参加費	調整中（最大5,000円の予定）	なし

担当：葛飾区立亀有中学校 校長 平岡 栄一

お知らせ

都中英研HPでは、各部の活動や研修会等のお知らせをご覧いただけます。本誌「都中英研だより」や年報である「中英研会報」の閲覧も可能です。また、Facebookでは、利用者間相互のコミュニケーションも可能です。ぜひご活用ください。
<http://www.chueiken-tokyo.org/>
<https://www.facebook.com/chueiken.tokyo/> ※ Facebookはフェイスブック株式会社の登録商標です。



都中英研HP



Facebook

編集後記

「都中英研だより 第76号」をお送りいたします。今年度は、3年ぶりに4つの部によるサマーワークショップが開催されました。引き続き様々な工夫をしながら、多くの先生方に研修にご参加いただいたり、情報共有が進む環境が整っていくことを願っています。ご多用の中、発行に際し、ご協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。

**本誌に関する
お問い合わせ先**

都中英研出版部長 今本 由美子（立川市立立川第三中学校 校長）
 TEL：042-523-4348 FAX：042-529-1015